

# 国内実態調査報告書

---

テーマ : 地域社会における福祉の課題—横須賀・三浦半島地域を対象に—  
ゼミ名 : 村上 研一ゼミ  
調査日 : 2022年9月19日(月)～9月20日(火)  
調査先 : 社会福祉法人みなと舎 生活介護事業所ゆう、横須賀市内の人口減少地域・生活困難地域の実態調査  
授業科目名 : 演習 I  
参加学生数 : 13名(3年生)

## 調査の趣旨(目的)

演習(日本経済論)の授業では前期、日本経済の現状と、経済活動の中での福祉領域の広がりについて学んだ。日本の総人口が減少する中で、支援を要する人々が増加している一方、高齢者や障がいを抱えている人たちが社会とのつながりを持ち、人間らしく暮らせるような社会が求められている。今回の調査では、重度身体障がい者の社会的自立を支援している通所施設、また首都圏内でも人口減少・高齢化の進展が顕著な地域の見学・実態調査を通じて、これからの日本社会の課題について考えた。また、調査地の三浦半島をフィールドに貧困問題を研究している外部講師からの講義も通じて、地域社会の課題について検討した。

## 調査結果

### 第1日目

身体障がい者の通所施設である社会福祉法人みなと舎・通所施設ゆうでの施設見学、またメンバーの方々との交流を通して、「自立した生活」とは何か、人間らしく生きていくとはどんなことか、について学んだ。また、森下施設長からの講演を通じて、福祉の仕事、人々が自分らしく生きていくことの大切さ、またそれをいかに支援していくかについてのお話を伺った。見学・実態調査と講義を通じて、誰もが自分らしく・人間らしく生きていくことに関する基本的な考え、すなわち「一人ひとりができることを大切に、可能な限りの力を発揮して、社会とつながっていきっていくこと」の大切さを学んだ。また、多くの人が幸せに生きていくために課題が、政策、社会的意識両面で明らかになった。

### 第2日目

神奈川県立保健福祉大学の吉中准教授およびゼミ生の報告と討論を通じて、三浦半島地域の貧困の実態とそれを支援する諸施策、諸制度の改善の課題について検討した。現状の制度・施策は人々のニーズに対応しきれていない面も多く、とりわけ担い手の育成が課題であることが明確になった。その後、横須賀市内で空き家の多い地域、高齢化が進んだ地域のフィールドワークを実施した。